

神奈川県寒川町にある興全寺の鬼板を作ったときの鈴木さん

# だん暖たてやま

10

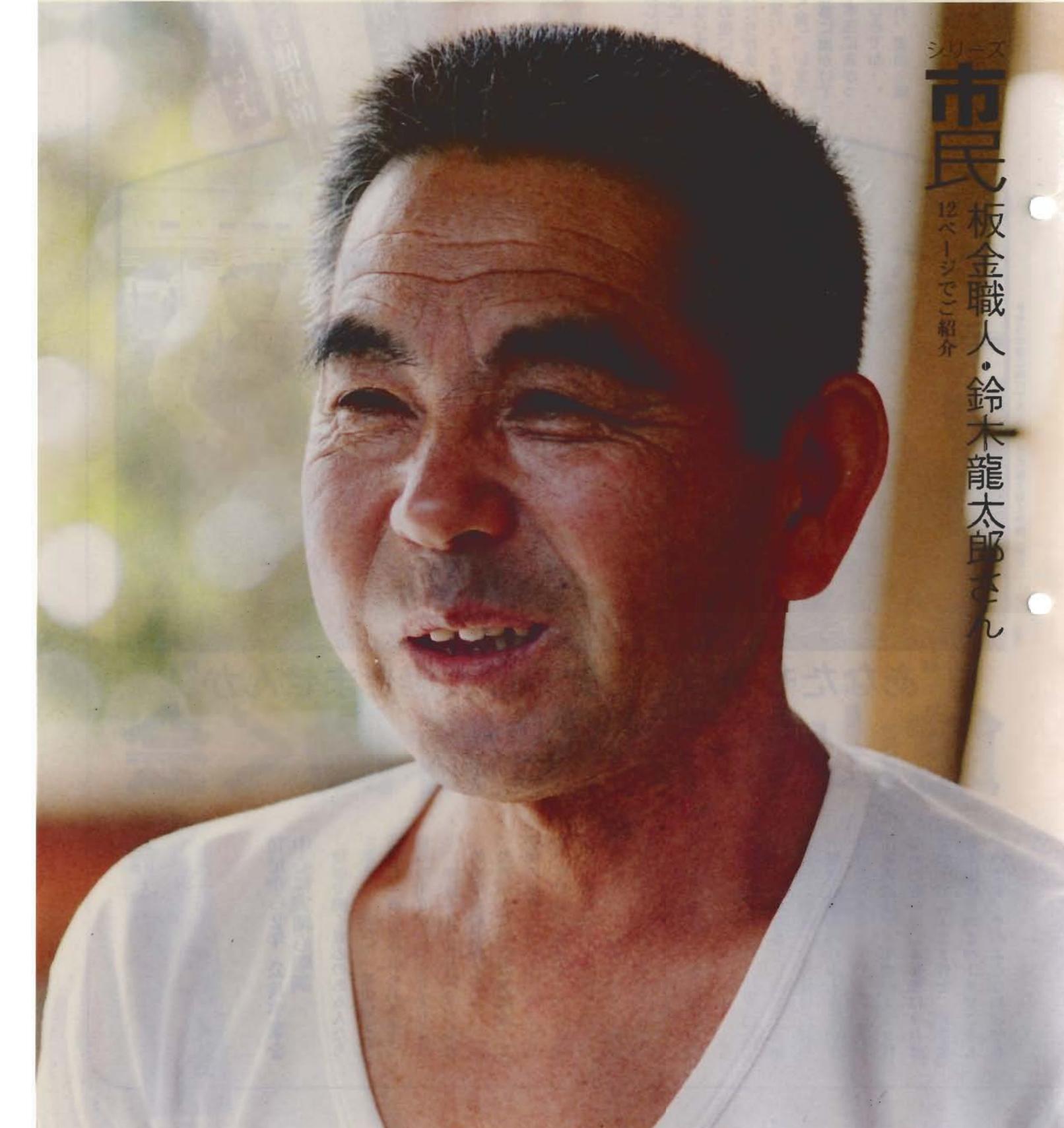
広報/たてやま

平成4年10月号(毎月15日発行) No.499

発行/館山市役所市長公室 TEL 294 館山市北条1145-1

電話 22-3111 内線202

●10月1日の人口/総人口54,517(+14)  
男26,240(+4) 女28,277(+10) 世帯数19,723(+11)  
( )内は前月比



シリーズ  
**市民**  
板金職人・鈴木龍太郎さん  
12ページで紹介



いまは板金業も手づくりがなくなつて、みんな既製品。個性がなくなつたね。板金職人として、なさけないねえ。なんの商売でも、人の上に立とう、人よりいいものを作ろうと思つたら、努力しなきやだめだな。幸い9年間の年期奉公とたくなつていう気持ちなんだ。いう修行があつて。技術でなくて精神修養なんだ。人に負けたくないつていう気持ちなんだ。

いまは板金業も手づくりがなくなつて、みんな既製品。個性がなくなつたね。板金職人として、なさけないねえ。

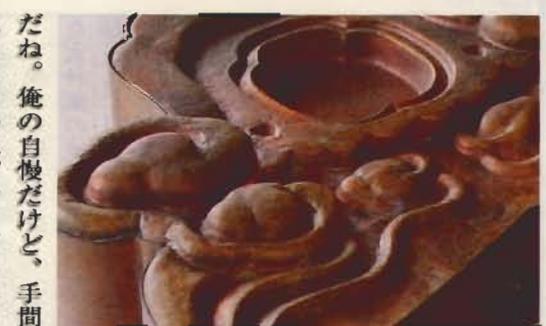
なんの商売でも、人の上に立とう、人よりいいものを作ろうと思つたら、努力しなきやだめだな。幸い9年間の年期奉公とたくなつていう気持ちなんだ。いう修行があつて。技術でなくて精神修養なんだ。人に負けたくないつていう気持ちなんだ。技術でなくて精神修養なんだ。人に負けたくないつていう気持ちなんだ。

いまは板金業も手づくりがなくなつて、みんな既製品。個性がなくなつたね。板金職人として、なさけないねえ。

それがね、18歳の頃かな、東京の人から「良い職人がほしい」という話しがあつて、「俺が行く」と言つたんだよ。そうしたら親方が「お前に仕事ができるか」って殴られた。「ちきしょく」と思つたんだよ。そうしたら親方に追いつけ、追い越せつて。親方が仕事してると、小便に行くふりして、仕事を見て技術を盗んだもんだよ。

いつも、自分の仕事を見ていたる人を、師匠と思ってやつてゐるだよ。失敗したら笑われるから、良く考えて仕事しなきやね。

鈴木龍太郎さん (59歳・船形)  
13歳の時、板金職人になり、この道46年のベテランとして活躍中。市内では、川名岡の日枝神社の屋根と鬼板、東長田の山宮神社の鬼板が鈴木さんの仕事。奥さんの千鶴子さんと娘夫婦に孫2人の6人家族。



一枚板で傷を付けやすい、この深さを出すのがミソ

市民の水がめの1つ、作名ダム周辺に秋が深まり始めた。せき堤に沿つて植えられた千本余りのソメイヨシノ・ホタンザクラの葉は紅葉し、秋の七草のクズ・オミナエシは実をつけ、ススキも銀白色の花穂を秋風になびかせている。赤紫色のキハギ・マルバハギ・ヤマハギ、白色のオトコエシ、桃色のタムラソウなどは林道沿いを彩り、足もとにナシバンギセルも顔をのぞかせている。

山肌では、ハゼノキ・イロハカエデ・アカメガシワ・イヌビモドキ・サルトリイバラ・キブシの実が赤・黄・褐色などに色づく。水をたたえたダムにはカラガモが群れ、まもなくマガモ・コガモ・オシドリなどの冬鳥もやってくる。

市内の畑、山葵、茂名、神余地区の山路は、秋の深まりとともに日一日と様変わりが進む。(Y)

**銀白色のススキがなびく  
晚秋の作名ダム周辺を訪ねる**

▲ナンバンギセル (ススキの根に寄生)



▲オミナエシ  
▼タムラソウ  
■マツマツ  
▲マルバハギ  
▲カマズミ





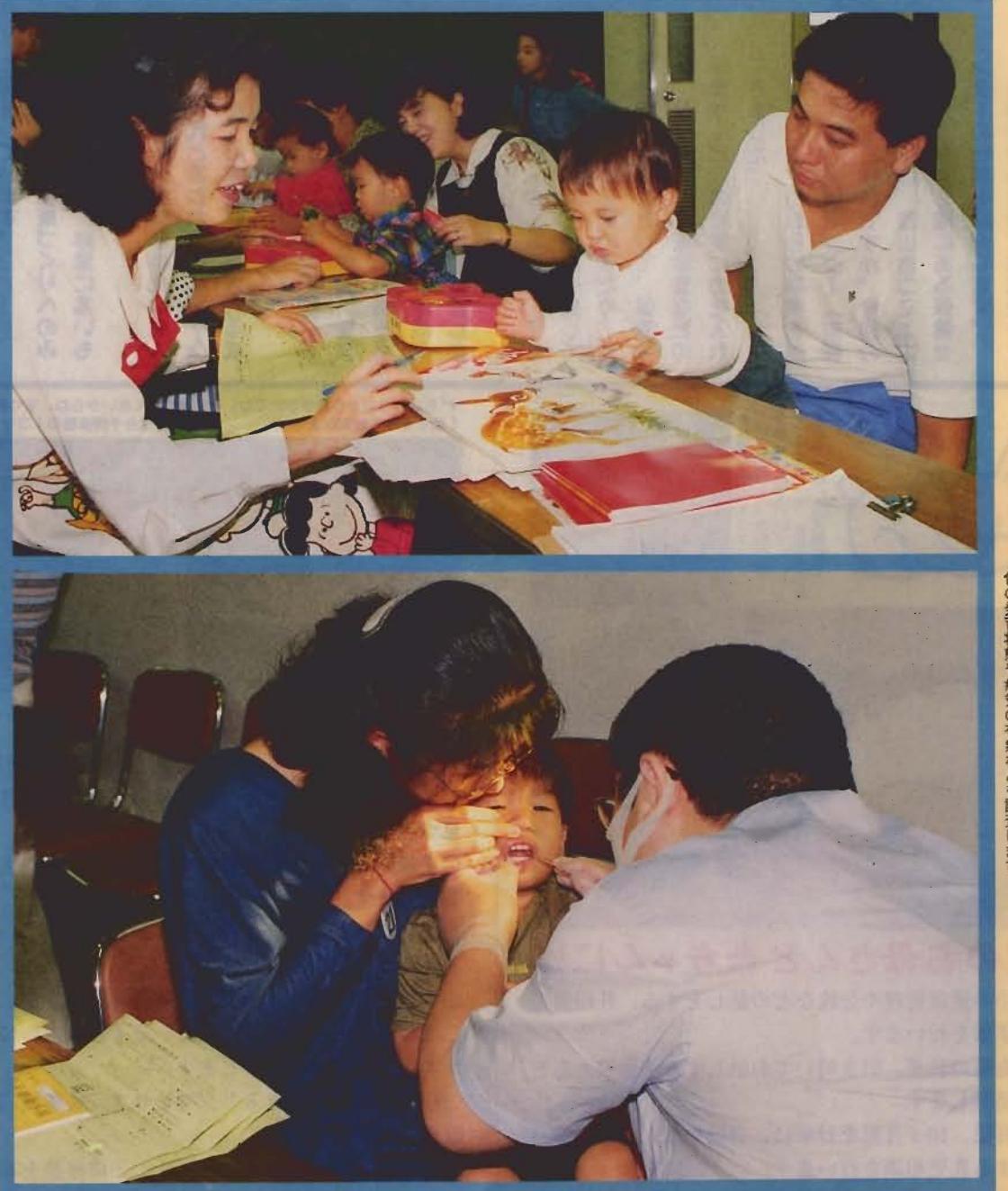






# みんなの健康づくりのお手伝い

コミュニティセンター2階の保健センターでは、みんなの健康づくりをお手伝いするため、さまざまな事業を展開しています。これらの事業をじょうずに活用して、日頃の健康管理に役立ててください。



健・康・だ・い・す・き  
保健課通信

1992

10

館山市民生部保健課  
電話 23-3113~4

● インタビュー ●

## 私の自己健康管理法

「健康でありたい」と、誰もが願っています。

しかし、ストレスや変化の多い現代社会のなかで、健康であり続けることは、なかなかむずかしいことです。

健康は、自分で管理すべきものです。

睡眠時間は…、食事は…、運動は…、ストレス解消は…、みんなの健康管理は適切ですか。

今回は「私の自己健康管理法」というテーマで3人に伺いました。

**病気には負けない気力が大切**

木村清さん

(73歳・市内北条)

18年前から糖尿病なんですが、なんとかじょうずにつきあってますね。病氣があるので定期的に医者にかかるし、一病息炎です…。薬は飲みません。もっぱら食事療法と適度な運動ですね。いまは、毎日中央公園を散歩します。もう年ですし、無理はいけませんから、歩くのは500歩ぐらいかな。帰ってきてからは屈伸運動、柔軟体操、腕立て伏せ、これだけは欠かしません。



**体も頭も刺激を与えて**

安田まつ子さん

(75歳・市内山本)

総合検診でも、どこも悪いところはないんですよ。6人家族で、家事に追われて動きまわっているのが、健康に良いのかしらね。それから、背筋を伸ばして、ある程度のスピードで楽しく歩くのが好きなんですね。

**自分で研究して体质改善**

佐藤洋子さん

(41歳・市内泊)

小さい時から虚弱体质で、ずっと腰痛、腹痛で苦しんできました。一番楽しいはずの20歳の



食事は、パン、そば、野菜を中心です。甘い物や塩分は、ほとんど摂りません。一人暮らしですから、食事の支度は大変ですけど体のためですから。病氣と闘うには、本を読んだりして、その病氣をよく知つておくことと病氣に負けない気力が大切だと思います。



年は何回かは、痛みでのたうちまわるんです。いまもインスタント食品は一切食べません。検査を受けても何でもなかつたし、健康を取り戻すためには、自分でやるしかないんですね。

今は、市の腰痛教室で学んだ体操をやったり、素足で石を踏んだり、松葉とアロエのジュースも飲んでるんですけど、調子いいですね。

良いといわれるものを色々やってみると、自分に合うものが必ずあります。やっぱり、自分の体は自分で研究して体质改善していくしかないダメですね。どうしても良くなりたいという気持ちにならないと…。

**病気には負けない気力が大切**

木村清さん

(73歳・市内北条)

中心です。甘い物や塩分は、ほとんど摂りません。一人暮らしですから、食事の支度は大変ですけど体のためですか。病氣と闘うには、本を読んだりして、その病氣をよく知つておくことと病氣に負けない気力が大切だと思います。



年は何回かは、痛みでのたうちまわるんです。いまもインスタント食品は一切食べません。検査を受けても何でもなかつたし、健康を取り戻すためには、自分でやるしかないんですね。

今は、市の腰痛教室で学んだ体操をやったり、素足で石を踏んだり、松葉とアロエのジュースも飲んでるんですけど、調子いいですね。

良いといわれるものを色々やってみると、自分に合うものが必ずあります。やっぱり、自分の体は自分で研究して体质改善していくしかないダメですね。どうしても良くなりたいという気持ちにならないと…。

頃も、いつも前かがみで歩いてましたし、海水浴なんて行つたこともありません。冷えますでしょ…。

すぐに食中毒症状になって、年によくあります。いまもインスタント食品は一切食べません。

## お父さん・お母さん おじいちゃん・おばあちゃんには

- 出産後の健康に問題のある人を訪問します。
- 70歳以上の人と40歳以上で希望する人には、健康保持のため健康手帳を交付します。
- 成人病予防やねたきり予防、お年寄りの健康など、さまざまなテーマで健康教育を行います。
- ねたきりのお年寄りなどを訪問して、生活や介護のアドバイスをします。
- ねたきりの人や障害を持つ人などを家庭訪問し、在宅機能訓練を行います。
- 30歳以上の女性を対象に、乳がん検診と婦人科がん検診を行います。
- 40歳以上の人と39歳以下で希望する人を対象に、各種



▲総合検診で年に1度は健康チェック



▲「健康にはバランスのいい食事、適度な運動、休養が大切です」健康教育で

検診（結核、肺がん、循環器、胃がん）と同じ会場で行い、その結果を総合的に判定する総合検診（ミニ人間ドック）を全地区で実施します。

- 50歳以上の男性を対象に、前立腺検査を行います。
- 40歳以上の人を対象に、大腸がん検診を行います。
- 保健推進員が担当地区のお年寄りなどを、家庭訪問します。
- 保健推進員が担当地区の食生活を改善するため、バランスのよい食事の講習会を開きます。
- 「自分の健康は自分でつくり、自分で守る」という認識を深めるため、健康まつりや健康づくり推進講演会を開催します。

## お年寄りの健康づくり

### お年寄りの健康づくり

総理府は、平成元年度に健康づくりに関する世論調査を行いました。その調査によると、「自分の健康は自分で守るべきであり、積極的な健康づくり、病気予防に努めることが大切」と答えた人が、全体の82・1%

妊婦中の人から乳幼児、そしてお年寄りまで、生涯を通じての健康づくりを進めるため、総合検診をはじめとして、健康相談、健康教育、健康診査などの保健サービスの充実に力を入れてきました。

妊婦中の人から乳幼児、そしてお年寄りまで、生涯を通じての健康づくりを進めるため、総合検診をはじめとして、健康相談、健康教育、健康診査などの保健サービスの充実に力を入れてきました。

妊婦中の人から乳幼児、そしてお年寄りまで、生涯を通じての健康づくりを進めるため、総合検診をはじめとして、健康相談、健康教育、健康診査などの保健サービスの充実に力を入れてきました。

ところで、これらの事業を開いている保健センター（市保健課）をご存じですか。今回の保健課通信は、館山市コミュニケーションセンター2階にある保健センターの仕事を紹介します。

お問い合わせは、保健センター（市保健課）へどうぞ。

# 長寿健康都市を目指す 生涯を通じての健康づくり

を始めています。そして、日常生活、運動、休養などの面で健康づくりを実行している回答しています。

このように健康づくりへのみなさんの関心は、非常に高いものがあります。

しかし、人生80年時代は成人病の時代と言われるほど、がん、脳卒中、心臓病に代表される成人病が増加しています。

館山市は、「自分の健康は自分でつくり、自分で守る」を突破口に、健康で活力ある长寿社会の実現を目指し、平成元年から長寿健康都市を宣言しました。

▼「痛くないからね、すぐ終わるよ」  
1歳6ヶ月児健康診査で



## 子どもたちには

- 生後12ヵ月で麻疹（はしか）の予防接種を行います。
- 1歳6ヵ月児を対象に心や体の発達を診たり、病気を見つけます。
- 1歳6ヵ月児の健康診査で、問題があった人を対象に訪問します。
- 生後24ヵ月になると百日ぜき、ジフテリア、破傷風の三種混合予防接種をします。
- 3歳になると日本脳炎の予防接種をします。
- 3歳以上で集団生活をしている子どもたちに、インフルエンザの予防接種をします。
- 小学校6年生になるとジフテリア、破傷風二種混合の接種をします。
- 女子は中学校2年生で、風疹の予防接種をします。

## 学校を卒業した人には

- 結核予防のため検診を行います。

